

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月3日(金) No.1

ことばの教室通信をはじめます



今年度も佐藤司が気仙小学校ことばの教室を担当しています。どうぞよろしくお願いします。

今年度は、新型コロナウイルスの影響もありますが、気仙小学校ことばの教室では、新たにLD等の児童生徒の通級指導を開始しました。LD等の児童生徒の通級指導については、陸前高田市では初めてのことです。また、ことばの教室でLD等の児童生徒を受け入れること、小学生だけではなく中学生も受け入れることについては、県内であり例がないので、通信等で紹介するのを控えていました。今年度の通信の発行が12月になってしまいました。

さて、令和3年度の通級する児童保護者に、3月末に教育委員会から「通級通知」が通知されました。4月初めには、LD等の通級児童保護者に「通級通知」が通知されました。その後、通級する児童生徒の所属する学校と通級曜日と授業時間を調整し、おうちの方と確認して今年度のタイムテーブルが完成しました。4月22日に気仙小学校から「通級開始のお知らせ」を通知して、4月23日から今年度の指導を開始しました。

2学期も残り数日となりましたが、すでに指導が終了したお子さんの時間が空き、通級曜日と時間について、変更等がありましたらご連絡下さい。

「通級形態」について

「通級形態」についてお知らせします。ことばの教室に行き指導を受けることを「通級」といいます。通級指導教室への通級形態は3つあります。

ことばの教室設置校の児童がことばの教室に行き指導を受けることを「校内通級」、保護者がお子さんを連れてことばの教室に行き指導を受けることを「他校通級」、担当者が児童生徒在籍校に出向いて指導することを「巡回指導」といいます。

陸前高田市では、震災前は高田小学校と気仙小学校におうちの方がお子さんを連れて指導を受けていました。しかし、震災後おうちの方の車や気仙大橋や姉齒橋が流され、他校通級が難しくなったために、平成23年から令和元年度までの9年間「巡回指導」に切り替えて指導してきました。しかし、平成31年1月に気仙小学校、令和元年7月に高田小学校の校舎が完成し、ことばの教室も整備されたことにより、令和2年度から完全な「巡回指導」から「校内通級」、「他校通級」に戻すことが決まりました。しかし、どうしてもお子さんを送迎できないご家庭があることから、今年度も市の配慮によって、巡回指導もおこなっていました。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校 ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月3日(金) No.2

「通級説明会」について



左の写真は一昨年の「通級説明会」です。例年5月の連休明けに市役所4号棟3階の会議室で開催していましたが、今年度は昨年と同じで新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにおこないませんでした。


「通級説明会」は、通級指導教室設置者の教育委員会と、設置校の校長、担当、保護者の参加のもと、ことばの教室の概要、対象児童生徒、指導の内容や方法、保護者との連携

等について説明する会です。今年度も中止になったため、十分な説明をしないまま指導を行ってきました。不明な点は遠慮なく指導の際や連絡帳等を活用して担当に尋ねてください。

通級開始のお知らせ

教育委員会から「通級通知」を受けて、ことばの教室設置学校から「通級開始のお知らせ」を通知しました。「通級開始のお知らせ」は、通級形態、通級曜日と時間をお知らせするものです。その後は、タイムテーブルに沿って指導を行いますが、通級開始後におうちの方の送迎で都合が悪くなったり、児童の学習の遅れが心配になったりして、通級曜日と時間を変更する場合も出てくると思います。そんなときは遠慮なくご連絡下さい。連絡については次の通りです。

児童の欠席・タイムテーブルの曜日・時間の変更の連絡

曜日	巡回指導先学校	
月曜日	気仙小学校	【巡回指導対象児童生徒の欠席・変更の連絡】 保護者は通学する学校にお知らせ下さい。児童在籍校は気仙小学校ことばの教室担当に連絡して下さい。担当の佐藤の都合が悪いときは、児童在籍校に連絡します。 【他校通級の場合】 保護者の都合で変更がある場合は、曜日や時間を調整しますので、気仙小学校ことばの教室担当まで早めに連絡下さい。欠席の場合は、その日の朝でかまいませんので連絡下さい。担当の佐藤の都合で変更する場合は、直接保護者に電話連絡します。
火曜日	高田小学校	
水曜日	広田小学校	
木曜日	米崎小学校	
金曜日	竹駒小学校	
	高田東中学校	
		

指導は、学校の行事や授業の内容で変更することもあります。

子どもたちは、授業時間中に通級指導を受けるために教室を離れますが、学校教育法施行規則第百四十一条で、通級指導教室で受けた授業を、当該小学校において受けた授業とみなすことができるとあり、欠席扱いにはなりませんのでご安心ください。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月3日(金) No.3

「通級指導」「巡回指導」



通級も指導回数の多い子で20回を超える回数となりました。通級する児童生徒のみなさんは、毎時間練習に励んでいます。

月曜日の午前中は、気仙小学校のことばの教室で指導しています。気仙小学校の児童と竹駒小学校の児童が通級しています。火曜日は、午前中に高田小学校の巡回指導で、校舎1階の保健室の隣の教育相談室及びサブルームで授業をしています。午後は、米崎小学校の児童が通級しています。水曜日は、広田小学校の巡回指導で、昨年度と同じで校舎1階の3・4年生の教室の並びのサブルームで授業をしています。広い教室ですが、静かで落ち着いて学習ができます。ときどき通級している子どもたちが学級で学習している様子も見させていただいております。午後は、小友小学校の児童が通級しています。木曜日は、米崎小学校の巡回指導で、1・2年生教室奥の相談室で授業をしています。金曜日は、竹駒小学校の巡回指導で、今年度から図工室で授業をしています。午後は、高田東中学校の巡回指導です。中学校に出向いて授業をするのは初めてのことです。

「通級指導」は、お子さんとおうちの方が一緒にことばの教室に来て授業を受ける形態です。岩手県のことばの教室では、「指導鏡机」といって鏡のついた机が設置されていて、児童と指導者が隣り合わせで鏡の前に座って構音指導を行っています。県内のことばの教室の多くは、おうちの方は隣の控え室で待つて頂くことが多いようですが、私は、指導鏡机で指導するすぐ後に座って頂き、授業に参加して頂いています。おうちの方にとっては、ことばの教室の学習を見たり聞いたりする機会もなく、教科書もないので、何をやっているのかわからないと思います。そのため、間近で観ていただき、何のために何をやっているのか説明しながら授業を進めています。構音の誤りを改善するための訓練を憶えてもらい、家庭でも取り組めるようにしています。

「巡回指導」は、担当が児童の在籍する学校に出向いて指導する形態です。陸前高田市では、送迎の難しいご家庭のために教育委員会と相談の上、実施しています。担当者は、学期のはじめとおわりの2回、授業参観及び指導の説明をするようになっています。専門の教室ではないので、指導鏡机やピアノ椅子、教材などはないので、どうにか間に合わせで環境を整えて授業をしています。

みんな元気に通級しています。

鏡のついた指導用机について



左の写真は、盛岡市立桜城小学校きこえことばの教室の指導室にある「照明付移動式鏡台」です。

私たちの指導法は「岩手方式」といって、鏡のついた机を使って、指導者と児童が鏡の前に並んで座って、鏡を見ながら口の形や舌の形、舌の動き、音を良く聞くなどの訓練をおこないます。「照明付移動式鏡台」は全国どこでも使われているのではありません。この鏡台は、日本で最初にことばの教室が開設された宮城県仙台市立通町小学校で指導されていた濱崎健治先生が使われていたものです。岩手方式はその指導法を引き継いでいます。

「照明付移動式鏡台」は、高田小と気仙小に設置してあります。設置校以外の小学校には、震災直後に岩手県ことばを育む親の会から、移動式の指導用鏡を届けて頂き、現在も指導する市内小学校の教室に配置して使用しています。しかし、今年度は米崎小学校には鏡がないので、手鏡を使って指導しています。以前は、米崎小学校にきこえの教室があったので、指導鏡（鏡のついた指導用の机）があったのですが、高田小学校の新築に伴って高田小ことばの教室に移動したためです。

新型コロナウイルス対応について

ことばの教室の指導は、母音や子音の音を聞き分ける耳の訓練や発声発語器官の機能訓練が授業中続きますので、雑音が入らないように窓を閉め切って指導します。指導では、新型コロナウイルス対策として、指導前に机とイスを消毒し、指導中は机やストローやコップなどに唾液がつくので、こまめに水洗いやアルコール消毒しながら指導しています。もちろん指導後も消毒しています。上の写真の桜城小学校では、指導用机の中央に透明の仕切り板を設置しています。陸前高田市では仕切り板などの対策は取っていませんので、消毒を徹底しています。

記録するために子どもたちは私の筆記用具を使っていますが、鉛筆を口元に持っていったりなめたりするので、鉛筆は自分のものを使わせたいと思います。連絡帳の他に筆箱も持たせて下さい。

熱中症対策について

指導する教室にはエアコンが設置されていないので、これからは特に室温が高くなります。熱中症にならないようにこまめに水分を取りながら指導しますので、水筒もあるといいと思います。

いろいろとお願いがありますが、よろしくお願いします。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月7日(火) No.4

鏡のついた指導用机について



左の写真は、盛岡市立桜城小学校きこえことばの教室の指導室にある「照明付移動式鏡台」です。

私たちの指導法は「岩手方式」といって、鏡のついた机を使って、指導者と児童が鏡の前に並んで座って、鏡を見ながら口の形や舌の形、舌の動き、音を良く聞くなどの訓練をおこないます。「照明付移動式鏡台」は全国どこでも使われているものではありません。この鏡台は、日本で最初にことばの教室が開設された宮城県仙台市立通町小学校で指導されていた濱崎健治先生が使われていたものです。岩手方式はその指導法を引き継いでいます。



「照明付移動式鏡台」は、高田小と気仙小に設置してあります。真ん中の写真は気仙小学校ことばの教室に設置されている机です。設置校以外の小学校には、震災直後に岩手県ことばを育む親の会から、移動式の指導用鏡を届けて頂き、市内小学校の教室に配置して使用しています。



新型コロナウイルス対応について

ことばの教室の指導は、母音や子音の音を聞き分ける耳の訓練や発声発語器官の機能訓練が授業中続きますので、雑音が入らないように窓を閉め切って指導します。指導では、新型コロナウイルス対策として、指導前に机とイスを消毒し、指導中は机やストローやコップなどに唾液がつくので、こまめに水洗いやアルコール消毒しながら指導しています。もちろん指導後も消毒しています。上の写真の桜城小学校では、指導用机の中央に透明の仕切り板を設置しています。陸前高田市では仕切り板などの対策は取っていませんので、消毒を徹底しています。

子どもたちは、記録する鉛筆を口元に持っていったりなめたりするので、鉛筆は自分のものを使わせたいと思います。連絡帳の他に筆箱も持たせて下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月7日(火) No.5

令和3年度ことばの教室通級説明会



左の写真は、令和1年5月14日火曜日午後6時から行われた、「令和1年度ことばの教室通級説明会」の様子です。



陸前高田市には、高田小学校と気仙小学校にことばの教室が設置されています。今年度は5月1日現在で27名の児童が通級しています。通級指導を始めるにあたり、保護者の皆さんに出席していただき、説明を行ってきました。毎年たくさんの子どもたちが通級指導を受けていますが、一般の皆さんには、どんな教室で何を学習しているのかわからないことが多くあります。教室のことを知ってもらい、安心して通級していただくために説明会がおこなわれています。しかし、今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止のため、「通級説明会」を中止しました。十分な説明ができずに今年度の通級指導を開始したように思います。

しかし、陸前高田市教育委員会、通級する児童生徒の在籍校の先生方、保護者のみなさんのご理解とご協力により、通級による指導を進めることができました。ありがとうございます。

これまで通級説明会で説明してきたことをいくつか紹介します。ことばの教室の正式名称は「言語障がい通級指導教室」といいます。平成4年度までは在籍をもつ特殊学級でしたが、平成5年度に「通級制度」が導入され、全国のことばの教室は、「通級指導教室」になりました。指導については、構音障がい、吃音などを中心に、「耳の訓練」、「機能訓練」、「母音指導」、「構音指導」、「発音指導」等を行っています。また、本教室では、今年度からLD等の児童生徒も対象に指導を行っています。詳しくはあらためて説明します。

ことばの教室の学習は、連絡帳を通して毎時間おうちの方に報告しますが、文章でうまく説明できないことが多いので、いつでも授業を参観してもらいたいと思います。授業で訓練したことを家でも取り組むと、学習の効果が高まります。仕事の都合で午前中参観できない方もいると思います。そのときは、午後に時間を変更しますので、いつでもことばの教室までご連絡下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校 ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月7日(火) No.6

令和3年度陸前高田市 ことばを育む親の会総会

来賓の皆さん



市親の会会長 村上 大夢さん



県親の会副会長 櫻岡正久さん



気仙支部会長 井上永治さん



令和3年度陸前高田市ことばを育む親の会総会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月18日付けで書面議決にて実施しました。配布した総会資料について、ご質問やご意見がありましたら、事務局までご連絡下さい。

さて、例年であれば左の写真のように、陸前高田市役所において、「通級説明会」を行い、その後、陸前高田市教育委員会教育長、学校教育課課長、指導主事、岩手県ことばを育む親の会副会長、気仙支部親の会会長を来賓に迎え「令和3年度陸前高田市ことばを育む親の会総会」を開催する予定でしたが昨年に続き中止となりました。

配布した総会資料について説明します。協議(1)、(2)は報告の(1)と(2)をごらん下さい。令和2年度は全ての活動が中止となりました。協議(3)活動計画の気仙支部の会議と交流会、学習会、県親の会主催の県親の会大会(釜石大会)、沿岸Bブロック研修会、合宿研修会「サマーキャンプinカシオペア」、「幼児期の言語研修講座」などは、中止または延期になりました。協議(4)会費額と予算についてです。会費は年間1,500円です。支出は県親の会に1人900円、支部親の会へ1人800円で合計1,700円です。会費額では不足分が出ますが、市P連からの補助金でまかなっています。昨年度と今年度は、県と支部に支出する会費額に変更があるため、繰越金が増えました。ご了承下さい。

上の写真は、令和1年度の親の会総会に出席された役員のみなさんです。今年度も引き続き役員を努めて頂いております。今後ともよろしくお願いします。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月7日(火) No.7

前期の「指導経過報告書」について



12月も2週目となり、2学期の終業式まで2週間ほどになりました。12月22日は冬至です。最近では8時間目の通級指導が終わる頃は日が暮れて暗くなってしまいます。冬至を過ぎれば少しずつ明るくなります。でも、寒さはこれからです。お互いに体に気をつけましょう。

さて、陸前高田市では、昨年度から震災後担当者が児童在籍校に出向いて指導を行う巡回指導から、震災前の通級制に戻しました。私は指導鏡の前に児童とおうちの方と3人で座って指導するスタイルをずっと行ってきました。しかし、震災後の9年間は児童全員巡回指導だったので、おうちの方と一緒に授業することができませんでした。昨年度からまた一緒に授業ができてとてもうれしく思います。一生懸命練習する子どもの様子をみてもらい、励まして頂いたり、練習の中で「○」か「×」の評価をお願いしたり、授業に参加して頂き、家庭との連携が十分とることができています。

通級指導教室の指導は、教科書があるわけではなく、やることと叫ぶこととをうまくできない舌などの動きの練習や、口を開けたり引いたりなどの口形練習で、やる気の出ない内容が多いので、おうちの方の励ましはとても力になります。また、おうちの方に連絡帳やことばでは説明できないことが多いので、授業を観て、舌の動きや形を覚えていただき、学習プリントの内容や使い方を知っていただき、家でも練習するととても効果が出ます。学期の始めと終わりには、お子さん同伴でおいで下さい。

ことばの教室の指導の様子は「通級経過報告書」でお知らせしています。通知表は学期毎ですが、前期と後期で報告しています。9月28日付で「前期通級経過報告書」を通知しました。通級している子の多くは、歪みの歯間化構音、側音化構音、中舌化構音といわれる誤り方です。これらの構音の誤りの原因は、舌の動きが悪いために誤った構音になった。もう一つは、舌の動きは良いのに、小さいときに誤った構音を身につけてしまったことが考えられます。教室では、口や舌の動きを良くし、正しく動かしたり構えたりできるように訓練し、正しい音を学習しています。LD等の指導では、困り感の原因を考え、軽減及び改善できるように取り組んでいます。報告書で学習の様子をお知らせしていますが、説明するのが難しいので、不明な点は直接相談して下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月8日(水) No.8

ことばの教室・きこえの教室・ 幼児ことばの教室の歴史について

「ことばの教室」が岩手県で最初にできたのは昭和42年、釜石市の旧大渡小学校です。気仙地区では昭和47年に盛小学校に、昭和48年に気仙小学校に開設されました。気仙小学校ことばの教室が開設されて48年目を迎え、県内でも歴史のある教室です。

令和3年度岩手県内に設置されている施設数は112、ことばの教室は91、きこえの教室は32、幼児教室は29、LD等通級指導教室は28、全教室数は180で、多くの子どもたちが通級しています。

気仙地区内ではことばの教室が盛小学校、越喜来小学校、気仙小学校、高田小学校、世田米小学校に設置されています。

きこえの教室は、立根小学校、越喜来小学校、高田第一中学校に設置されています。

幼児ことばの教室は、大船渡市教育委員会(平成12年度開設)、高田小学校(平成29年度開設)に設置されています。

「ことばを育む親の会」

ことばの教室は、親の会と大変重要な関わりがあります。ことばを育む親の会は、児童が安心してことばの教室に通級できるように活動をしています。ことばの教室は、ことばを育む親の会の設置運動によって誕生し、今日に至っています。また、親の会は、担当者の研修制度や通級制度、指導に関わる条件・環境整備について積極的に働きかけ、日本における通級の仕組みづくりに関わってきました。

陸前高田市では、「気仙小学校ことばの教室親の会」と「高田小学校ことばの教室親の会」、その上に「陸前高田市ことばの教室親の会」がありましたが、平成23年10月2日に統合して「陸前高田市ことばを育む親の会」となりました。

気仙地区では、「陸前高田市ことばを育む親の会」、「盛小学校ことばを育む親の会」、「越喜来小学校ことばを育む親の会」、「世田米小学校ことばを育む親の会」で組織する「岩手県ことばを育む親の会気仙支部」があり、その上の組織として「岩手県ことばを育む親の会」があります。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月8日(水) No.9

LD・ADHD・ASDについて

LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）、ASD（高機能自閉症・自閉症スペクトラム・・・）をご存じでしょうか。

小学校に入学すると、いきなり教科書を中心とした学習が開始されます。また、学校内の教室の中で集団で生活します。学校には、登校すると1時間目、2時間目・・・給食、掃除、午後の授業、帰りの会など、時間で動きます。4年生以上になるとクラブや委員会の活動も増えます。運動会や学習発表会、マラソン大会など、年間を通して多くの行事があります。

子どもたちは、それぞれ特徴や個性を持っています。みんな同じではありません。学習や生活を送る中で、困り感を持つのは当たり前です。それでもどうにかみんなと同じように学習や生活を送っています。しかし、学習や生活の中で他の子よりも困り感が強く、どうしてもうまく対応できない子がみられます。そのような場合、LD、ADHD、ASDの疑いがあります。困り感のある子のほとんどが、この3つのうちのどれかに分類されますが、多くの場合、3つを併せもっていると言われています。このような子どもたちは、文科省の調査では、全体の6.3パーセントという結果が出ています。得意なこと、不得意なことは誰にもあると思います。そのことが、日常の学習や生活に影響するような程度になり、病院では、3つのうちのどれかに診断されると思います。

読む、書く、計算する、推論するなど、学習面でみんなよりも困り感が強く出る子がいます。このような困り感が強い場合、LD（学習障がい）の疑いがあると考えられます。

みんなが座っているときに立ち歩く、いつもそわそわしている、急に思いがけない行動をとる、片付けができない、注意散漫、集中できないなどの症状は、ADHDの疑いがあると思われます。

こだわりが強く、切り替えが難しく、時間がかかる、一番でないといけない、話がかみ合わない、自己中心的、友達とうまくかかわれない、遊べない、相手の気持ちがわからないなどは、ASD（高機能自閉症・自閉症スペクトラム他）の疑いがあると考えられます。

これらの症状は、生まれたときから持っているもので、学習で治すことはできませんが、軽減する、見えなくすることができます。ADHDには薬による治療があります。

LD、ADHD、ASDの診断がある。またはその疑いがあると認められ、市町村の判断で指導が必要な場合、学習の場は通級指導教室になります。岩手県では、平成18年度から教室を設置して指導を進めています。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月8日(水) No.10

LD等通級指導教室の指導開始

学校教育法施行規則第140条で通級指導教室の対象障がい者は、1言語障がい者、2自閉症者、3情緒障がい者、4弱視者、5難聴者、6学習障がい者、7注意欠陥多動性障がい者、8その他障害のある者。となっています。

岩手県には、難聴通級指導教室、言語障がい通級指導教室、LD等通級指導教室の3種類の通級指導教室があります。陸前高田市には、言語障がい通級指導教室が高小と気小に1教室ずつ設置され、LD等通級指導教室はありません。

学校教育法施行規則第141条は、児童生徒が、在籍する学校以外の学校で通級指導を受ける場合、在籍する学校の授業とみなすことができるとした規定です。国語等の授業を受けないで、通級指導を受けた場合は、欠席にはなりません。

支援を要する児童生徒の以前の就学先は、養護学校、特殊学級の大きく二つでしたが、現在は、支援学校、支援学級、通級指導教室の3つです。就学の仕組みや学びの場は、平成14年度から制度が大きく変わり、「特殊教育」から「特別支援教育」に大変革されました。平成18年度には今の体制ができました。平成18年生まれの人は、今年で15歳です。おうちの方は、皆「特殊教育」の時代に育っています。「特別支援教育」はご存じではないと思います。現在の支援学級で学ぶ小中学校の児童生徒は、必要性に応じて、学ぶ教科や時間を決定し、普段は通常学級で学び、一斉では対応が難しい教科は個別に学ぶことができます。週1時間から3時間程度の個別の支援は、通級指導教室で学びます。支援学級と通級指導教室の大きな違いを説明すると、支援学級は、各教科、道徳、英語などを学ぶ場ですが、通級指導教室は、教科の学習はできません。自立活動を学ぶ場です。

通級は市町村が決定します。柔軟に通級指導の変更ができ、状態が改善され、通常の学級でほぼ支障なく授業を受けることができるようになった場合は、通級指導を終了して、通常学級ですべての授業が受けれるようになります。

通級指導教室の担当は、小学校または中学校の教員免許状を有する必要があります。また、基本的には、ことばの教室（言語障がい通級指導教室）は言語障がいに該当する児童生徒を担当することになりますが、専門性や指導方法の類似性等により、LD等に該当する児童生徒を指導することができます。さらに、担当が教室設置校以外の学校で指導を行う場合（いわゆる巡回指導）は、身分の取扱いを明確にすることが必要です。

以上の要件を満たし、今年度からLD、ADHD、ASDの児童生徒の指導を新たに対象として開始しました。また、小学校児童だけでなく、中学校生徒の指導も開始しました。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月9日(木) No.11

「発音」と「構音」について

英語などの外国語では、発音の仕方を学習しますが、日本語の発音の仕方を学習した経験のある方は少ないのが現状です。そのため、日本語の母音と子音の区別がはっきりしません。母音は「あいうえお」、子音は「か、さ、た・・・」と思いがちです。例えば、「さ」の発音記号は[s a]で、分解すると[s]と[a]になります。[s a]は「音節」といい、分解した一つ一つの[s]や[a]を「単音」といいます。この「単音」を発することを「構音」といいます。[s a]「さ」

「音節」を発声することを「発音」と言います。[s a]の[s]を子音、[a]を母音といいます。母音と子音の構音は、口の形、舌の形や動き、呼気の出方、舌先の位置などが一つ一つ決まっています。ところが舌の構えや呼気の出方などを間違えて使っている子どもたちがいます。このように、誤った構音を「構音障がい」といいます。「構音障がい」は、舌などの動きが良いのに、小さい時に誤った構音を身に着けてしまった場合と、舌などの動きが悪く正しく構えたり動かしたりできないために誤った構音を身に着けた場合が考えられます。どちらにしても、訓練すると正しく構音できるようになるので心配はありません。

ことばの教室で行う構音指導は、口や舌などの構音器官が正しく構えたり動かしたりできるようにする訓練、正しく聞き取りできるようにする耳の訓練、自分の誤りを知り、どうしたら治せるか学習しようとする心構えを学習する時間などにより進められます。訓練中心の学習で、きちんと座って集中して口や舌の形や動きを見る力、注意して良く聞き、音の小さな違いが聞き取れるようにする力、できないことでもできるまで根気強く頑張ろうとする力、自分のこれまでの頑張りが分かり成果が分かる力など、学習や生活に必要な大切な力が備わっていないとなかなか学習を進めることができません。ことばの教室と家庭の協力が大切です。ぜひ、学習している様子を見に来て下さい。

まもなく冬休み

気仙小学校は、12月23日(木)が第2学期の終業式です。また、3学期の始業式は1月18日です。しばらく冬休みのため授業ができません。学校から出される冬休みの宿題もあり、大変でしょうが、ことばの教室で学習したことを思い出して、できれば毎日1分でも2分でも良いので練習しましょう。そのために、通級の時に使っている「連絡帳」をいつも見えるところにおいて下さい。どこまで合格したのか、連絡帳の中の学習プリントを見ればわかるので、復習を中心に取り組んでみましょう。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月9日(木) No.12

指導の紹介「動機づけ」「機能訓練表」



1、2学期は、通級指導と巡回指導により、ことばの学習を進めてきました。子どもたちは、毎時間正しい構音ができるように頑張って練習しています。

「サ」音や「キ」音などの発音練習もしていますが、機能訓練も年間を通して取り組んでいます。今回は、機能訓練表について説明します。

ことばの教室の指導は、訓練が中心です。訓練の内容は、動機づけ、耳の訓練、発声発語器官の機能訓練、母音指導、構音指導、発音指導、習熟指導の7つです。

動機づけは、現在正しくできない舌の動きや舌の構え方、音の出し方など、自分の課題を知り、治そうとする意欲をもつ学習です。今回は、動機づけの「機能訓練表」について説明します。動機づけの学習で子どもが自分の誤りを知ってもらうために、「機能検査表」と「学習プリント」を使っています。

「機能検査表」は、舌の動きや構えを検査します。検査の結果、「機能訓練表」で練習します。この表の全てができないと母音と子音が正しく構音できません。正しく構音・発音ができるには、まずは「機能訓練表」の項目全てが完成しないといけません。この表が完成すると次に学習プリントの1ページ目に進むことができます。「機能訓練表」の各項目は、簡単そうですがやってみると意外に難しい内容です。通級指導は週1回45分で、その中でも機能訓練の時間はそんなに多くはとれません。「機能訓練表」の項目のできないところは、毎日おうちで取り組んでもらうと効果的です。全く舌が動かせない場合でも、毎日取り組むと3ヶ月くらいでできるようになります。とにかく励ましながら練習するしかありません。同じような内容の訓練を3ヶ月も続けると、飽きてしまい、子どもも指導する担当も辛くなってきますが、あきらめずに取り組ませることが大切です。頑張って練習した結果、全て完成して合格したときの喜びは格別です。そのときに、おうちの方も一緒に練習に取り組んでいただけると、親子で喜びを分かち合うことができます。

ことばの教室の学習は、教科書も教材もないので、なにをやったらいいかわからない授業になりがちです。機能訓練の学習が中心のはじめの頃は、指導の内容が単調で飽きてしまうこともありますが、こつこつ取り組んで積み上げていくので、おうちの方にも励ましの声をかけていただきたいと思います。現在はすでに合格している子がほとんどですが、さらに良く動くように、練習を続けてほしいと思います。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月9日(木) No.13

指導の紹介 「学習プリント」

「さ」のれんしゅうプリント

No.	指導	評価
1	口の形 唇を上下の歯が 歯肉と歯肉の間で あはれる	
2	舌の形 舌の中央の正中溝に 沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、 隙間の形や大きさ、隙間の位置を チェックします。	
3	風の音 舌の奥の奥で、舌の表面の形、 舌の中央の正中溝に 沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、 隙間の形や大きさ、隙間の位置を チェックします。	
4	舌先の位置 舌の奥の奥で、舌の表面の形、 舌の中央の正中溝に 沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、 隙間の形や大きさ、隙間の位置を チェックします。	
5	舌の動き 舌の奥の奥で、舌の表面の形、 舌の中央の正中溝に 沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、 隙間の形や大きさ、隙間の位置を チェックします。	
6	舌の奥の奥で、舌の表面の形、 舌の中央の正中溝に 沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、 隙間の形や大きさ、隙間の位置を チェックします。	

前号からの話題の続きです。

動機づけは、現在正しくできない舌の動きや舌の構え、音の出し方などの自分の課題を知り、治そうとする意欲をもつ学習です。今回は、「学習プリント」で誤りを確認することについて説明します。学習プリントを準備してお読み下さい。

各音の「学習プリント」の1ページ目は、母音や子音の単音が正しく構音できるかできないかを確認するために使います。

例えば、「き」の子音は発音記号で表すと[k]（単音）です。[k]（単音）と母音[i]（単音）がくっついて[ki]（音節）ができます。[k]を構音するには、①口の形、②舌の形、③風の出方、④舌先の位置、⑤風の音、⑥舌の奥の使い方が決まっています。①から⑥のどれか1つでも正確にできないと[k]は正しく構音できない（構音障がい）と判断します。子どもたちには、学習プリントの①から⑥について自分の構音を評価させます。右の評価項目(×△○)欄に練習した日にちと評価を記入しています。下の欄には、合格した日にちを記入しています。

①口の形

口の形は、母音指導の口形練習です。「あ、い、え」は上下の歯が4本以上見えるように口角を引かせ、「う、お」は歯が見えないように口をすぼめます。多くの子どもたちが練習している音は、イ列音が多いのですが、母音の口形指導もしますが、あらためて練習するのではなく、音づくりの中で合わせて指導しています。舌全体の広がりや舌の奥の様子、舌先の位置、舌の動きを目で確認するためには、どうしても歯が見えるように構える必要があります。

②舌の形

舌の形は、舌の広がり、舌の表面の形、舌の中央の正中溝に沿って隙間(くぼみ)が見えるかどうか、隙間の形や大きさ、隙間の位置をチェックします。このわずかな大きさの隙間を見逃すと、正しく評価できません。じっと見て良否を判定するのは、低学年の子どもたちには難しいのですが、頑張ってもらっています。

2 「き」のカタマリ 「い」をくっつけて 「き」がはつおんできるようにしよう

No.	カタマリ	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん
1	「きー」 「いー」	○	○	○	○	○	○	○	○
2	「きーいー」	○	○	○	○	○	○	○	○
3	「きーいー」のカタマリ 「いー」のカタマリをくっつける	○	○	○	○	○	○	○	○
ごうかくした ひだち									

3 「き」のカタマリ 「い」をくっつけて 「き」がはつおんできるようにしよう

No.	カタマリ	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん
1	「きー」 「いー」	○	○	○	○	○	○	○	○
2	「きーいー」	○	○	○	○	○	○	○	○
3	「きーいー」のカタマリ 「いー」のカタマリをくっつける	○	○	○	○	○	○	○	○
ごうかくした ひだち									

4 「き」のカタマリ 「い」をくっつけて 「き」がはつおんできるようにしよう

No.	カタマリ	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん	はつおん
1	「きー」 「いー」	○	○	○	○	○	○	○	○
2	「きーいー」	○	○	○	○	○	○	○	○
3	「きーいー」のカタマリ 「いー」のカタマリをくっつける	○	○	○	○	○	○	○	○
ごうかくした ひだち									

③風の出方

風の出方は、ラ行音を除く日本語の母音と子音は、舌の中央から呼気が出ます。破裂音、摩擦音、破擦音などの子音の多くは、呼気の流れを阻止や変化を加えて音色を変化させます。舌の真ん中から呼気が出ているかどうかは、正しく子音が出ているかどうかにつながるので、しっかりチェックします。呼気の出方が弱いと曖昧な発音につながります。

④舌先の位置

舌先の位置は、母音、子音の各音によって違います。母音を例にすると、「え」と「い」は舌先が下歯茎につきますが、「あ」、「う」、「お」は下歯茎から後方に離れています。正しい位置に着いているか、また舌先移動の仕方や舌全体の形をチェックします。

⑤発した音（子音）

※子音の多くは、声帯が震えないので、「発声」ではなく「発する」と表現します。

子音（風の音）には、いろいろな音色があります。自分の発した音を自分の耳で聞いて、同じか違うか、正しいか間違えているか、を自分で聞き分けることができるように訓練します。聞き分けられないと、構音障がい改善することが難しく、指導の期間が長くなることもあります。また、指導が終わっても日常会話等で誤りがみられるなど、定着が難しくなります。

⑥舌の奥の両端が上の奥歯に着いているか

本来呼気が舌の中央が出るところ、口の脇から漏れるようにして子音を発する誤り方を側音化構音といいます。原因は、舌が堅く、横への広がりがないためです。イ列音に多く、母音イ音が正しく構えられないと、全部のイ列音の発音が障がいされてしまいます。側音化構音出ない場合でも、舌の広がりが足りないと音の出方が不安定になるので、観察する必要があります。

このように、学習プリントの1ページ目の内容は、母音や子音の構音をチェックし、もしできない項目があれば、機能訓練プリントで舌の訓練をするとともに、①から⑥の項目が正しくできるまで練習します。子音が完成したら、次のページの音節づくりに進むことができます。

2ページ目は、正しくできた子音と母音を連結して、「き」や「さ」、「り」などの音節をつくる練習です。その後は、日常的に使えるように、連続音、母音連結、単語、短文のように進みます。

学習の様子は、連絡帳に綴じてあるので、おうちの方とお子さんと学習プリント見て確認して下さい。プリントの内容をどのようにして練習したのかをお子さんに実際に聞いてみて下さい。まだ誤り音が完成していない場合は、できない原因や理由を説明してくれると思います。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月9日(木) No.14

指導の紹介 耳の訓練

耳の訓練

他者弁別・・・相手の構音・発音を聞いて音を聞き分ける
自己弁別・・・自分の構音・発音を聞いて音を聞き分ける
異同弁別・・・それぞれ二つの音が同じか違うか聞き分ける
正誤弁別・・・正しいか誤っているか聞き分ける

ことばの教室の指導を紹介しています。今回は学習プリントについて説明しましたが、今回は耳の訓練に

ついて説明します。

音を聞き分ける力は、聞いて内容を理解するだけではなく、日常の会話や音読で正確に発音するために大切です。構音の誤りに置換(おきかえ)といって、「おさかな」を「おたかな」のように、「さ」を「た」に置き換える誤りがあります。誤って発音しても、本人が気づかないと、いくら授業で学習しても正しい音を身につけることができません。また、平気で「おたかな」と書いてしまうこともあります。聞くことは、理解、話す、書くにとっても影響しています。

さて、通級している子どもたちの多くは、構音の学習をしています。例えば、「しんぶんし」を「ひんぶんひ」や「ちんぶんち」に誤っている場合、「し」(音節)が正しく発音できないのではなく、「『し』の風(子音)(単音)」が出せないのです。授業では「『し』の風の音」と表現して、正確に聞き取れるように練習しています。前回、学習プリントについて説明しましたが、各音をチェックして、音が正確に出せない場合、①口の形、②舌の形、③風の出方、④舌先の位置、⑤舌の奥の付き方、のいずれかに誤りがみられるはずです。ことばの教室では、①から⑤の項目全てが正しくできるように、鏡の付いた机の前に座って訓練します。指導鏡を使って学習するのは、自分の口や舌の形や動きが正しいかどうかを良く観るためです。

岩手県では指導鏡を使って指導をしますが、他県では指導鏡を使わないところもあります。指導鏡で口や舌の様子をみない場合は、耳の訓練を中心に指導しています。誤りを短期間で改善するには、機能訓練と耳の訓練などを取り入れた岩手方式が効果的です。耳の訓練は「ちの風[tʃ] (単音)」の段階で丁寧に指導し、完成後は「ち[tʃi] (音節)」の段階、「ちちち」の連続音、「母音+ち」、単語、短文、音読の段階とだんだん難しく、スピードも速くなります。音読の段階になると、一瞬で「ち」が正しく発音できたかどうかを、子どもが聴覚的に正誤弁別できなければなりません。日常会話はさらに難しくなります。良く聞くことができるように、指導開始時期から毎時間耳の訓練を繰り返し練習しています。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月9日(木) No.15

指導の紹介 母音指導(口形指導)

母音をはっきり発音するために、口の形を指導することが多いのですが、口の形だけでは正確に発音することはできません。動機づけと耳の訓練で説明したとおり、母音と子音は、①口の形、②舌の形、③呼気の出方、④舌先の位置、⑤無声音の風の音、有声音の音(おと)、⑥舌の広がり、①から⑥全てが正確でないと、正しい音は出ません。「あ」の練習で、いくら大きく口を開けても、舌の形や舌先の位置が少し違うだけで音が狂ってしまいます。口を大きく開けただけでは音は良くならないのです。母音の構音指導は、連絡帳に綴じてある「あいうえおのれんしゅうプリント」を使って練習しています。子どもたちがわかりやすいように、歯の見え方と風の音の2つのめあてで練習しています。歯の見え方は、「あ」、「い」、「え」は歯が見えるように口角を引き、「う」「お」は歯が見えないように口をすぼめます。

母音指導のはじめの頃は、「あいうえお」の口形指導が中心です。特に上下の歯が見えるように口角を良く引いて練習をします。口の周辺の筋肉が固いと、なかなか正しく構えることができません。指導の最初の時期から取り組みます。毎日練習すると、必ずできるようになります。あきらめないで努力することが大切です。

機能訓練と耳の訓練が進むと、母音口形だけではなく舌の形や舌先の位置の学習をします。風の音が、「は」、「ひ」、「ふ」、「へ」、「ほ」に聞こえるように練習します。口から息をたくさん出して風の音を自分の耳でチェックします。ぜひ、母音が正確に発音できているかどうか、おうちでもチェックしてみてください。

2学期の指導について



まもなく2学期が終了します。学期毎におうちの方に通級指導の様子を説明させて頂きます。他校通級で毎週おうちの方と一緒に通っている方には、毎時間の様子をみていただき、指導の内容や方法、そして結果等について説明しています。また、すでに指導を終了しているお子さんのおうちの方にも様子をお伝えしております。まだ指導途中の校内通級及び巡回指導のお子さんのおうちの方は、これまでの通級指導の結果と、今後について相談したいと思います。お忙しいとは思いますが、ぜひお出で下さい。電話連絡で日時を調整します。もし、都合がつかない場合は、電話で対応します。よろしくお願いします。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月10日(金) No.16

指導の紹介 母音指導(構音指導)



ことばの教室の指導を紹介しています。今回は母音指導(口形指導)について説明しましたが、今回は母音指導(構音指導)について説明します。

母音指導の口形指導では、歯の見え方と風の音の2つに気をつけて練習しています。

歯の見え方で注意するのは、上と下の歯それぞれ4本以上見えるようにすることです。指導鏡の前に座って、自分の口を見ながら練習しています。実際に試してみるとわかりますが、「は」の風を出すとき、上下の歯が見えないと、いくらきれいに風を出そうとしても、きれいな音が出せません。授業では、子どもにわかるように説明しますが、低学年の子どもたちにとっては難しく、繰り返し練習させられているという印象だと思います。上下の歯が見えるように構えることは、とても難しいことです。取り立てて口角を引く練習をしないとできません。ファッション誌などのモデルさんの口元を見ると、きれいに口角が引けて白い歯が見えます。口角がよく引けるようになると、表情も良くなります。また、口角を引いて構えることで舌も横に広がり、子音の練習の時に役立ちます。教室では週1回の指導で、しかもたくさん時間をかけることはできません。練習内容は簡単なので、歯が見えるように口を横に引く練習を、毎日1回でいいので家で取り組んでいただきたいと思います。箸やストローを歯ではさんで練習するのもいいと思います。

次に風の音です。「ア [a]」は、口を開けて上下の歯が4本以上見えるように構え、「はあ」とガラスを曇らせる構えです。実際にやってみてください。

「イ [i]」は、口の中が狭いために、母音の中で一番難しい音です。歯が見えるように構えて風を出します。風の音は、「ひ」です。[i] は、子音の構音の基本で、「さ」や「し」などの子音の元になります。

「ウ [u]」は、息を「ふう」と吹きかけるときの唇の形で、歯は見えません。唇の隙間の形は横長です。英語の [u] は唇をとがらせます。間違えないようにしてください。

「エ [e]」は、歯が見えるように構えて、イよりも歯と歯の間を広くとり、風を出すと「へ」の風の音がします。

「オ [o]」は、唇をすぼめて、「ほう」の風の音がする構えです。歯は見えません。おうちで、みんなでやってみましょう。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月10日(金) No.17

指導の紹介 構音指導(子音)

あいうえおひょう

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
い	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い	
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	
え	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え	
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	

ことばの教室の指導を紹介しています。前回は母音指導(構音指導)について説明しましたが、今回は構音指導(子音)について説明します。

構音は、[s](スの風)、[tʃ](チの風)などの単音を発することです。これらの構音(音づくり)の段階の指導を「構音指導」といいます。

サ行音の「さ」、「す」、「せ」、「そ」を例に説明します。母音イの口の形で構えます。舌の中央に縦の線が見えますが、これは「舌正中溝」といって溝です。舌先を下歯の裏につけ、真ん中から大きく息を吸って息(ヒの風)を出すと、舌の中央に隙間ができます。次に、ヒの風を出している口や舌の構えを保持したまま、隙間を狭くすると[s](スの風)を導くことができます。

このように、口や舌を正しく構えて構音できるように練習する段階です。

通級している子どもたちの多くは、正確に構えたり、音を出したりできません。そこで、「機能訓練表」を使って、舌の形や動きを良くする練習を繰り返して、母音イ音が正しく構えられるようにします。そして、次にサ行音の学習であれば、[s](スの風)が正確に出せるように、「さ」の学習プリントの1ページ目の①から⑥に気をつけて音づくりをします。

[s]は、舌先を下歯茎につけて、正中溝に沿って舌の真ん中の隙間から風を出して音をつくります。しかし、舌先が下歯茎から離れて浮き、上下前歯の間に挟んだり飛び出したりする誤り方を「歯間化構音」と言います。舌先を下歯の裏につけられない、舌先の感覚が弱い、舌の動きが悪いなどの原因によって生じます。

また、舌の真ん中に隙間をつくることができず、[s]の風が口の脇から漏れる誤り方を「側音化構音」と言います。舌が堅く、十分に脱力できず、力が入っているために、舌を広げて構えられないために生じます。

構音障がいの原因はそれぞれ違いますが、訓練すると直りますので心配ありません。構音障がいには原因があります。その原因を知り、できないことを何度も繰り返して、できるまで根気強く繰り返し練習します。指導者と二人で指導鏡の前に座って、難しい練習をするのは、低学年の子どもにとってとても苦痛だと思います。最後までやり遂げるには、おうちの皆さんの励ましが必要です。これまでの学習の取り組みの様子や成果がわかるように、連絡帳に学習プリントを綴じています。学習プリントを観ていただき、ぜひお子さんの頑張りに声をかけていただきたいと思います。いつでも授業を公開しますので、ぜひおいで下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月10日(金) No.18

指導の紹介 発音指導

ことばの教室の指導を紹介しています。前回は構音指導(子音)について説明しましたが、今回は発音指導について「サ」音の学習プリントに沿って説明します。

1 スの風のめあて

「さ」のれんしゅうプリント

№	めあて	チェック
1	口の形 唇を上下の歯に、歯茎にすく あえる	<input type="checkbox"/>
2	舌の形(舌の先) 舌の先を歯茎に、歯茎にすく あえる	<input type="checkbox"/>
3	風の出し方 舌の先を歯茎に、歯茎にすく あえる	<input type="checkbox"/>
4	舌の奥の両端が上の奥歯に 付いている	<input type="checkbox"/>
5	舌の奥の両端が上の奥歯に 付いている	<input type="checkbox"/>
6	舌の奥の両端が上の奥歯に 付いている	<input type="checkbox"/>

前回の構音指導(子音)で説明したように、「さ」の基になる子音づくりが学習プリントの1ページ目です。①から⑥の全てが「○」になると、子音(単音[s])が完成し、合格します。お子さんのプリントにも合格した日付を記入していますので確認して下さい。まだ合格していない場合は、「機能訓練表」と「ひ・い音の学習プリント」で基本の練習をしています。

2 「スの風とアをくっつけてサが発音できるようにしよう。」

「さ」のれんしゅうプリント

№	めあて	チェック
1	「さー(舌の先を歯茎にすく)」「あー」	<input type="checkbox"/>
2	「さー(舌の先を歯茎にすく)」「あー」	<input type="checkbox"/>
3	「さー(舌の先を歯茎にすく)」「あー」	<input type="checkbox"/>

学習プリント2ページ目は、2「スの風とアをくっつけてサが発音できるようにしよう。」です。

子音[s](スの風)と[a]「ア」をくっつけて音節[s a]「さ」をつくる練習です。はじめは、スの風と母音アをそれぞれ息を止めて出しますが、次に息を止めないでつなげます。だんだん

間隔を狭くして「さ」[s a]の音節を完成させます。

音節は、学習プリントの1ページ目と同じ、①から⑥でチェックします。

- ①口の形
- ②舌の形
- ③風の出方
- ④舌先が下歯茎に着く
- ⑤風の音
- ⑥舌の奥の両端が上の奥歯に付いている

それぞれ、目と耳と感覚を使って自己評価します。

す。ぜひ、プリントを観ていただき、励ましていただきたいと思います。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月10日(金) No.19

指導の紹介 習熟指導と音読テスト

おんどくのめあて

No.	めあて	評価(×△○)
1	大きな声で ゆっくりと	
2	口を開けたり 引いたり すぼめたり	
3	一字 一字 ていねいに	
4	「し」や「ち」に きをつけて	
5	おぼえを しっかり出して	
6	したの形に 気をつけて	
7	したを しっかり上げて	
8	したさきに 気をつけて	

ことばの教室の指導を紹介しています。前回が発音指導について説明しましたが、今回は習熟指導と音読テストについて説明します。

「さ」の学習プリントを例にして説明してきましたが、短文の段階が終わると習熟の段階の音読と会話の練習に入ります。

音読は、お子さんの使っている国語の教科書を使って行います。できるだけ練習してきた音が多く含まれる物語文や説明文を選びます。音読の学習は「音読のめあて」

のプリントを使います。連絡帳に綴じてあるのでご確認ください。

「音読のめあて」の内容を説明します。

1 「大きな声でゆっくりと」

声の大きさは、教室の対角線上の端から端まで聞こえるように、騒音計の音圧レベルで70デシベル以上で音読できるようにします。練習してきた音に注意して、自己評価できるように、ゆっくりとした速さで行います。声帯をしっかり震わせて、響きのある声が出せるようにします。声の大きさを子どもに知らせるために騒音計を使っています。

2 「口を開けたり引いたりすぼめたり」

ア段は大きく口を開け、イ段、エ段は上下の歯が見えるようにし、ウ段、オ段は歯が見えないように口をすぼめて練習します。子どもたちは、口を開ける練習はしてもすぼめる練習はあまりしないし、意識も低いと思われるので、多くの子どもたちは、普段の様子をみると口をすぼめるのが足りません。イ列とエ列は、口角を引いて構えますが、きちんと口角を引くことも難しいようです。ぽかんと開けた口の形のまま、曖昧な口形で発音しています。その口形で大きな声を出させると、母音が強調されて汚い発音になってしまいます。

3 「一字一字ていねいに」

練習してきた音はもちろんですが、五十音全ての音を丁寧に発音して読む練習をします。練習してきた音以外の曖昧な音も、取り立てて構音指導します。「手伝いをしました。」のはじめの「し」は [ʃ i] で、母音 [i] は有声音ですが、二つ目の「し」は、[ʃ i] で母音が無声音（風の音）です。このような風だけの音は、「～です」の「す」、「ゆきかき」の「き」、「けしき」の「し」、「つくし」の「つ」、「ちくわ」の「ち」などたくさんあります。風だけの音はしっかり風を出します。「～は」、「～が」は意識して口を開け、「を」、「も」は口をすぼめるように声をかけています。

4 「、」や「。」に気をつけて

点や丸で文章の区切りをつけ、語のまとまりをとらえて読む練習をします。1年生の国語の教科書を見ると、ことばの間に空白「わかち書き」があります。1年生の教科書の文字は、ひらがなだらけで、空白がないととても読みづらいからです。2年生の国語の教科書を見ると、はじめはわかち書きですが、文章の中にカタカナや漢字が入ってくると、途中からなくなります。意味を理解しながら文章を読むためには、文節で区切って読むことが必要です。ことばの教室では、音読の段階で発音練習をするとともに、音読の練習をしています。

5 風をしっかり出して

キ音、サ音、シ音、チ音、ツ音などの、破裂音や摩擦音、破擦音を学習してきた場合、音読の段階でも子音がはっきり聞こえるように、呼気に気をつけさせています。ことばの教室で学習して、正しく発音できるようになっても、日常的に音読や会話で使うことは、とても難しいことです。音読は、文字を見て読むので、音に気をつけやすいのですが、会話では文字が見えないので、注意しなければならない音を見逃しがちです。しかし、間違えて発音したときは、聴覚的に気づいて、言い直しができるように、耳の訓練をしています。それでも間違えると思いますので、その時は、遠慮なく「変だよ」と声をかけて下さい。注意して音読練習をするうちに、日常的に使えるようになっていくと思います。

6 番以降は、特に気をつける項目を入れていきます。

最後に音読テストをします。「音読のめあて」が達成できたら、毎週の指導を終了し、定期的に検査をして様子を観察します。定着するまで時間がかかりますが、音読の中で、自分の発音の誤りに気づき、直すことができるようになったとき、指導を終了します。

3月1週目に終了か継続の最終判定をします。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月13日(月) No.20

岩手県ことばを育む親の会 気仙支部総会(紹介)



令和2年度、令和3年度の親の会の活動が全て中止になっているので、今年度の会員みなさんに活動の様子をお伝えすることができません。そこで、No.20号からNo.24号で、主な取り組みを紹介します。



令和元年5月17日(金)午後6時30分から、盛小学校ふたばルームにおいて、岩手県ことばを育む親の会気仙支部総会がおこなわれました。

総会には支部の役員と担当者が出席します。支部会長は、盛小学校ことばを育む親の会会長が兼務し、支部副会長は盛小を除く各親の会会長、支部理事は各教室親の会副会長が役員になります。



総会には、気仙支部親の会事務局校の盛小学校長、気仙支部会長の井上永治さん、支部顧問の千葉修さん、山下哲夫さん、村上明海さん、陸前高田市親の会、越喜来小学校、世田米小学校、盛小学校の各教室親の会の役員と担当が出席しました。陸前高田市親の会からは担当の佐藤が出席しました。



会長の井上永治さんの挨拶がありました。「昨年も、大船渡市、陸前高田市、住田町の教育委員会を訪問して教育長さんにお会いしてきました。ことばの教室、きこえの教室、幼児教室を大事にいただいていると感じました。また、支部レクでパスタづくりをして、参加されたみなさんと仲良くなれました。令和元年度に向けてお願いします。」

総会の中で、昨年度大船渡市でデジタル補聴器(ロジャー)を購入していただいたことや、陸前高田市でも現在要望しているなどの話題が出されました。今年度分は総会資料でご確認下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月13日(月) No.21

第49回岩手県ことばを育む親の会 紫波・矢巾大会(紹介)



今年度は、6月26日(土)釜石市民ホールTETTOを会場に第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会を開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。

No.21号は、令和元年度に開催された県親の会大会を紹介します。令和元年6月15日(土)矢巾町文化会館、田園ホールにおいて、岩手県ことばを育む親の会大会「紫波・矢巾大会」が開催されました。大会主題は「新しい時代に生きる子どもたちを支え育む親の会活動のあり方を考えよう～子どもとともに歩む親の会をめざして～」です。200名を超える参加者で、表彰、講演、学習会が行われました。表彰では、前岩手県難聴言語障がい教育研究会会長、永年担当者、親の会役員を務められた7名の方が受賞されました。気仙支部からは前気仙支部親の会会長の佐藤由希恵さんが受賞されました。おめでとうございます。

その後、講演と座談会がありました。座談会では、紫波支部と矢巾支部親の会前会長と現会長6名が、幼児ことばの教室が設置されるまでの経緯や幼児教室のこれから、親の会の体制づくり等、これまでの経験を基に話し合いがもたれました。

陸前高田市親の会でも、運動を進め、幼児教室が平成29年度に開設されました。巡回指導も震災後に行っています。これからの通級指導と親の会の在り方について考えていきたいと思います。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月13日(月) No.22

令和元年度岩手県ことばを育む親の会気仙支部 親子レク「フルーツポンチづくり」(紹介)



2年連続で支部レクが中止になると、長年毎年行ってきた行事を忘れてしまうような気がするので、No.22号は、令和元年度の支部レクを紹介します。

令和元年8月25日(日)に、大船渡市立盛小学校体育館を会場に、岩手県ことばを育む親の会気仙支部による親子レクが行われました。親子と職員40名ほどが参加しました。

9時から開会行事、9時10分からレクが行われました。

はじめに「スイカわり」です。ビーチボールを置き、子どもたちが新聞紙でつくった棒を振りかざして、みんなの誘導で前に進んで棒を振り下ろします。うまく「スイカわり」ができるとビーチボールは割れませんが、「ボンッ」と迫力のある大きな音を立てて跳ね上がります。気仙地区の親子が3つのグループに分かれ盛り上がりました。スイカを叩くと、子どもたちにはうれしいお菓子のプレゼントもありました。



そのあと、身支度を整え、手洗いをしてフルーツポンチ作りです。5つのグループに分かれて白玉、スイカ、ブルーベリー、みかん、ももなど、色とりどりに器に盛り付けました。半分にカットした大きなスイカが各グループ

に配られ、子どもたちがスプーンで丸くくりぬく作業をしました。それを冷蔵庫で冷やしました。

冷える間に、体育館でしっぽ取りゲームやフラフープくぐりなどのゲームを楽しみ、最後にみんなで会食しました。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月13日(月) No.23

令和元年度岩手県ことばを育む親の会

沿岸Bブロック研修会(紹介)



沿岸Bブロック(釜石市・大槌町・遠野市・陸前高田市・大船渡市・住田町)で研修会を行っています。

6月26日(土)釜石市民ホール TETTO を会場に第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会が開催されます。沿岸Bブロック研修会は、その大会と抱き合わせで行い、みんなで大会に参加して研修することとしました。しかし、中止となりました。平成元年のBブロック研修会を紹介します。



令和元年9月1日(日)に遠野市にある伝承園、カップ淵、土淵地区センターを会場に、県親の会沿岸Bブロック研修会が開催されました。参加者数は、気仙支部から21名、釜石支部から12名、大槌支部から7名、遠野支部から30名、全員で70名の参加でした。



10時から開会行事が行われました。その中で釜石支部親の会会長の北川祥樹さんから、「隣の伝承園で親子で遠野ホップを使った和紙のコースター作り、その後子どもは語り部による昔話とカップ淵散策、大人は土淵地区センター和室で懇談会があります。楽しく交流を深め一日楽しんで下さい。」と挨拶がありました。



開会式の後10時15分から11時30分まで遠野のホップを使ったコースター作りです。3グループに分かれて紙すきをするので、作業を待つ間は伝承園内の曲り屋や佐々木喜善記念館などの施設を見学しました。



11時35分からは、子どもたちは語り部による昔話とカップ淵散策を楽しみました。大人は、土淵地区センター和室で3つのグループに分かれて協議が行われました。

協議では、北川会長から「交流会で出された課題をこの場で解決することは難しいので、今日出された課題や話題を各地区に持ち帰って交流して下さい。子どもの通級環境を良くするためにどんなことが必要なのかなど、みんなで出し合ってください。」と話され、協議に入りました。協議では、大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町、遠野市の親の会の取り組みについて交流しました。遠野市では、教育長訪問の前にアンケートを取って保護者からの願いを集約しているそうです。釜石市では親の会の働きかけで釜石中学校LD等通級指導教室が今年度設置、開設されたそうです。きこえの教室では、通常の学級で授業を受ける際に必要なFM補聴器、ロジャーなどの購入、中学校に進学する際のきこえの教室の設置など、毎年情報交換をしているそうです。

通級形態には校内通級、他校通級、巡回指導があります。『保護者の仕事の関係で通級できない子もいるようです。保護者の送迎が難しい方も多く、巡回指導をお願いしたい。』という意見が出されました。一方

で、『保護者の送迎による通級は、直接指導の様子を観ることができ、子どもの成長が分かり、授業で教えてもらったことを家でも練習できる。』など、それぞれのメリットデメリットが話されました。近年、親の会行事に参加する方が少なくなってきたので、親の会が盛り上がるように、どんなことが必要なのかについても出されました。櫻岡副会長は、「子どもの年齢を一つ、二つ、三つ・・・九つ、十と数えます。「つ」がつくのは9歳までです。10歳からは親元を離れる年齢で、自分でどうしなければならないかを知って、間違えたときは自分で正すことができる年齢です。9歳までに情熱を持って子育てをしなければならない。この時期にことばの教室に通級して、しっかり目を見て話を聞く、正しい発音ではっきりと話すなど、学習の基本を身につけることはとても大切です。」と話されました。

12時30分から閉会行事が行われ、「コースターの親子製作が楽しいでした。」と子どもの感想発表がありました。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和3年12月10日(金) No.24

親の会費の集金のお願い

10月18日付けで、総会を书面議決にて実施いたしました。会費額は例年通りの1,500円です。集金を次のように進めます。

①冬休み明けに、集金袋をお子さんに持たせます。

②1月28日(金)までに、お子さんの担任の先生に集金袋をお渡し願います。

※児童生徒在籍校の担任の先生方には、たいへん申し訳ありませんが、通級指導で訪問した際に受け取らせていただきます。

よろしくお願いします。



冬休みの学習について



2学期の終業式が近づいてきました。授業参観と指導の様子をお伝えしますので、ぜひお出で下さい。連絡帳で毎時間簡単な説明をしていますが、機能訓練や音の練習は、文書で説明するのが難しいので、直接お子さんの舌の形や動き、音の様子をみて頂いた方がわかると思います。

お子さんの指導は、12月23日まで行いますが、学級や学校の都合で、その前の週で指導を終了することも考えられます。授業がない場合もありますので、お出での際は、前日までに担当者にご確認下さい。

さて、冬休みの練習についてです。連絡帳の中に綴じてある学習プリントを見ていただくと、日付と丸印と合格のサインがあります。

機能訓練表を中心に練習しているみなさんは、全部丸をめざして練習しましょう。

各音の学習プリントは、1ページ目から合格したところまでの復習が取り組みやすいと思います。

学習プリントの1ページ目では、正しく構音できるように、①口の形、②舌の形、③真ん中から風が出ているか、④舌先の位置、⑤風の音、⑥舌の奥の両端が上の奥歯に着いているかをチェックして練習してきました。そのことを思い出して、冬休み中も練習してみましよう。おうちの方は、ときどき声をかけて下さい。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和4年1月25日(火) No.25

「学習指導結果説明会」中止について

通級及び巡回による週1回の指導をおこなってきましたが、今年度の指導日も残すところ、2月に4回、3月は1回または2回となりました。3月4日(金)に、今年度通級した児童生徒の終了か継続かを決定して教育委員会に報告します。それに伴い、例年であれば2月の最終週から3月1週目にかけて、おうちの方と児童の在籍する学校の先生方に参加していただき、今年度の指導の結果を報告する「学習指導結果説明会」を開催していました。しかし、今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため中止します。

以前実施していた「学習指導結果説明会」の内容

期日 2月最終週～3月1週目

時間 午後3時50分頃から4時30分 (40分程度)

会場 児童在籍校

参加者 校長 担任 保護者 児童 担当 他

次第

1 開会のことば

2 校長先生のお話

3 ことばの教室と指導内容の説明

4 児童の発表(内容は①から④です。)

①うまくできなかったこと 「〇〇ができませんでした。」

②練習して上手になったこと 「練習して〇〇ができるようになりました。」

③大変だったこと 「〇ができなくて家でも練習しました。」

④音読発表(連絡帳の中のプリント・国語の教科書)

5 おうちの方の感想

6 先生方の感想

学習指導結果の説明について

「学習指導結果説明会」の中止に伴い、今年度の指導の結果について、個別に対応させていただきます。保護者のみなさんは、2月7日(月)から2月28日(月)の間で都合の良い日に、お子さんの指導曜日・時間に合わせてお出で下さい。午後に相談を希望される方は、相談日を調整しますので前日までに連絡下さい。すでに指導を終了しているお子さんで説明がまだの場合も説明します。

連絡先は、タイトル欄の電話番号までお願いします。午前中は、巡回指導で学校を留守にしますので、不在の時は、希望曜日と時間を気仙小職員にお伝え下さい。児童在籍校の校長、担任への説明は計画しませんが、希望する場合は個別におこないます。後日、巡回指導で訪問した際に相談します。よろしくお願いします。

はまなす

陸前高田市立気仙小学校

ことばの教室通信

住所 陸前高田市気仙町字愛宕下313番地

電話 54-3225(ことば) 55-2932(職員室)

発行 令和4年3月14日(月) No.26

令和3年度の指導終了



今年度も、コロナ感染予防のために、昨年度に引き続き説明会等の集まりをもうけることができないため、みなさんとお会いすることや交流することができませんでした。とても残念に思います。

さて、今年度の指導を終了します。児童在籍校の先生方やおうちのみなさん、教育委員会の先生方には、通級指導、巡回指導に際して、ご支援ご協力いただきました。今年度からLD等の児童生徒の通級も開始し、至らないところも多々ありましたが、お陰様で無事に今年度の指導を終了することができました。ありがとうございました。

児童在籍校と保護者の方には、個別にこれまでの指導の経過と通級終了及び継続について説明させて頂きました。そして、3月14日までの指導を基に報告書を作成しました。ことばの教室の指導は、訓練中心です。できないことをできるようにするのですから、とても大変な学習です。それに、教科の学習とは違って教科書也没有ありません。課題も一人一人全員違います。自分の課題が達成できるように、ひたすら頑張るしかありません。通級したみなさんは、毎時間集中して話を聞き、舌の形や動きを良く見て、かすかな風の音の違いを聞き、繰り返し練習してきました。その結果、通級したみなさんは、わかること、できることが増え、確実に成長しました。今年度で終了する子も継続する子も、大変ご苦労様でした。終了したみなさんは、10月頃また検査をしますので、会話でも使えるようにこれからも練習して下さい。来年度も継続して学習するみなさんは、4月20日頃から開始しますが、それまでしばらく授業はありませんので、春休み中も自分の課題に向けて練習して下さい。

通級指導経過報告書について



「後期通級指導教室経過報告書」で後期及び今年度の指導の様子を報告します。

陸前高田市では、震災直後、保護者の送迎が難しく、通級できない児童もあり、学びを保障するために巡回指導に切り替えて指導してきました。しかし、令和2年度から震災前の通級に戻しました。おうちの方には、

毎週送迎していただき、指導鏡の前で3人で指導する中、後ろから声をかけて励ましていただいたり、やさしく見守っていただいたりしました。おうちの方といろいろな話ができて、有意義な時間を過ごすことができました。巡回指導で指導の様子をご覧いただけないみなさんには、十分な説明ができませんでした。構音及び発音の様子を文章で表現するのはとても難しいため、ご不明な点があると思います。そのときは、お子さん同伴で教室にお出で下さい。実際にお子さんの舌の動きや形、発音の様子を説明します。お気軽に連絡下さい。

研究会について

「岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会」



私たち、きこえ、ことばの教室、LD等通級指導教室、幼児ことばの教室の担当者と組織している研究会があります。現在約300名の会員を擁しています。昭和40年に結成された岩手県ことばを育む親の会の働き掛けによって、担当者の要請、教室設置運動を経て、昭和42年に岩手県第1号のことばの教室が設置されました。そして昭和45年に研究会が発足し、昨年度が50周年目でした。しかし、コロナ感染予防のため、1年遅れで、

去る1月7日（金）に、「岩手県難聴言語障がい教育研究会結成50周年記念第62回研究大会」を開催しました。

研究会では、昭和45年発足当時から言語発達遅滞（ことばの発達の遅れ）の分類で、学習や生活で困り感のある児童の指導支援を行ってきました。その後、法整備が進み、平成18年にLD等通級指導教室が設置され、LD、ADHD、ASDの児童生徒の指導支援が開始されました。さも新しいことが始まったかのように思われますが、私たち担当者からすれば、元々やってきたことが、やっと正式な対象になったという認識です。

このような通級対象の拡大とLD等通級指導教室の設置によって、研究会の名称を「岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会」に変更することになりました。

通級指導教室は、在籍を有しない教室です。通常学級に在籍している児童生徒が、困り感の理解や軽減を図るために、通級して個別指導を受ける場です。言語は年間35単位時間以上、LD等は年間10単位以上280単位時間以内で行う教育です。通級指導教室や研究会のことをたくさんの方に知っていただき、この教育を大切にしていきたいと思います。

親の会会費について

陸前高田市ことばを育む親の会の会費をお支払いいただきありがとうございました。今年度は、親の会の活動はできませんでした。詳しい活動や決算等は、後日報告します。